兵庫県立ひょうごこころの医療センター　広報誌
Hyogo prefecture-Hyogo Mental Health Center

2025
vol. 3

光る風

〒651-1242　神戸市北区山田町上谷上字登り尾3
TEL（078）581-1013（代表）
FAX（078）583-3797
URL https://hmhc.jp/

特集：依存症医療センターについて

依存症医療センターチーム

- 依存症医療センター センター長　ご挨拶
- 依存症医療センターのご紹介
- 院内断酒会設立３０周年記念例会 幸風会設立２０周年記念例会記念例会を終えて
- 認定看護師の外来での取り組み
- あいアイマルシェを開催しました
- シンポジウム開催のご報告
- 外来のご案内
- 交通のご案内

Special feature　依存症医療センターについて

1　依存症医療センター長　ご挨拶

センター長　　置塩　紀章

　アルコール依存症をはじめとするアルコール関連問題は、近年医療全般における重要な課題として捉えられています。当センターは、平成8年に治療病棟を開設し治療を行ってきました。

　また、兵庫県アルコール健康障害対策推進計画の策定をうけて、平成30年に依存症拠点機関・専門医療機関の指定をうけました。当センターは、アルコール依存症の治療と回復支援を専門的に行っています。

　おかげさまで令和7年10月26日に「兵庫県立ひょうごこころの医療センター 院内断酒会設立30周年記念例会 幸風会設立20周年記念例会」を開催することができました。大勢の方々がご参加下さいました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

　入院治療では、医師や看護師、心理士、精神保健福祉士、作業療法士、薬剤師、栄養士など多職種によるアルコール依存症リハビリテーションプログラムを行っています。薬物療法や認知行動療法などを組み合わせ、症状改善と再発予防に取り組んでいます。また外来治療では、通院による継続的なフォローアップを行い、外来治療プログラム「APPLE」を行っています。

　家族の方々への支援にも力を入れています。アルコール依存症は家族全体に大きな影響を及ぼすことから、ご家族の疾病の理解と苦労や疲労の受容などを目的として、家族教室を開催しています。さらに、地域の医療機関や行政、自助グループなどとも連携し、社会復帰に向けた取り組みを行っています。

　今後も、多職種による多面的なアプローチを実践し、アルコール依存症の治療、アルコール関連問題に積極的に取り組んでまいります。

2　依存症医療センターのご紹介

　当センターでは平成8年にアルコール依存症治療病棟を開設し、平成30年から兵庫県・神戸市より依存症治療拠点機関・専門医療機関の指定を受け、院内組織として「依存症医療センター」を設置し、現在はアルコール・ギャンブル問題について力を入れて取り組んでいます。

　アルコール依存症については、アルコールに頼らずに生きていく方法を模索し、新しい生活スタイルの確立を目指すことを目的に、医師による診察に加え、入院・外来で専門職種による集団での治療プログラムを実施しています。特に入院治療は、医師の診察、薬剤指導、栄養指導、心理検査、体力測定などに加え、健康増進・教育プログラム、自身の酒歴を振り返り今後の生活について考えるプログラム等、多岐にわたる内容となっています。

　ギャンブル依存症については、令和7年3月から専門外来、8月から外来集団プログラムを開始したところです。

　また、家族教室の開催、研修会の実施、リーフレットの作成・配布等の普及啓発活動、依存症関連問題にかかる行政・医療・相談・回復支援機関等との連携等も行っています。

Event Report

院内断酒会設立30周年記念例会 幸風会設立20周年記念例会

3 記念例会を終えて

【断酒表彰バッチ】

北２病棟看護師長　入江 ゆみ子

院内断酒会設立当初から、記念例会は5年刻みで開催していました。しかし新型コロナの流行によって中止になり、令和7年10月26日、10年ぶりに開催することができました。断酒会、AA（Alcoholics　Anonymous）の地域自助グループの皆様には、小雨が降る中、朝早くからお集まりいただき、道案内や受付、壇上花「ドラゴンの目覚め」のご寄贈、来賓挨拶、誓いの言葉、体験発表など、全面的にご協力頂きました。また地域の医療、福祉、行政、支援団体からも多数の方にご参加いただき、総勢130名が参加しました。

小雨が降る中、集った参加者の皆さんは笑顔で声をかけ合い、まるで同窓会のような賑やかな集いとなりました。神戸ダルクの皆さんによる演舞「エイサー」。太鼓の鼓動に呼応する手拍子。暖かな空気に包まれて会場が一体となりました。
1日断酒を続けて来られた皆さんの努力を想い、真心込めて作った断酒表彰バッチ。壇上でバッチを受け取る横顔は、誇らしく輝いていました。最後に皆で歌った「♪明日があるさ　ひょうごこころバ　ジョン」。最後まで合わないままに終わってしまいましたが、歌詞やリズムはバラバラでも、肩を組み笑顔が溢れ、大変盛り上がりました。断酒表彰バッチを服や鞄に付け、仲間と談笑しながら帰路につく皆さんを見送り、開催することができて本当に良かったと実感しています。

仲間に支えられて回復した人が、次の人を想い支える。断酒会やAAなどの自助グループは、アルコール依存症を患う人を孤独にさせない、かけがえのない存在であると感じました。

次は5年後に、皆さんと集えることを願っています。

4 認定看護師の外来での取り組み

いろんな職種の
人たちが患者さんを
支えているんだね

「一緒に考えることから始まる外来アルコール依存症治療プログラム」

外来では、アルコール依存症の外来治療プログラム「APPLE」を実施しています。アルコール依存症は意志の強さや弱さの問題ではなく、適切な支援によって回復を目指すことができる病気です。外来治療では、生活や仕事を続けながら、ご自身のペースで治療に取り組むことができます。

外来治療プログラムでは、多職種が連携し、心理教育や体験エクササイズを通して、飲酒の背景や再飲酒を防ぐ工夫について一緒に考えていきます。私は、治療を「こうあるべき」と決めつけるのではなく、ご本人が何を大切にして生きていきたいのかを丁寧に伺うことを大切にしています。人は「やめたい気持ち」と同時に、「今はやめられないと感じる気持ち」という、相反する思いを抱くものです。そのどちらの気持ちにも意味があると考え、否定することなく寄り添いたいと思っています。

回復の道のりは、決して一直線ではありません。立ち止まったり、つまずいたりしながらでも、いつでも立て直すことができます。ひとりで抱え込まず、ぜひ外来でお話を聞かせてください。

精神科認定看護師　長浜 利幸

あいアイマルシェ

『あいアイマルシェ』開催しました！

令和7年12月12日（金）に「あいアイマルシェ」を開催いたしました。これまでも患者さんの成果発表の場、地域交流の場として「あいアイまつり」を開催しておりましたが、今年度より新たな試みとして、多くの方が参加しやすい、当センター南１病棟・ソーシャルセンターに開催場所が変更になりました。

患者さん・ご家族
地域の皆様
183名
の方が参加しました。

マルシェ当日まで院内で検討を重ね、開催時期が例年よりも遅くなってしまいましたが、たくさんの方が参加くださいました。

顔なじみの方との交流や、販売ブースでの買い物を楽しまれ、病院と地域が繋がる笑顔あふれるイベントとなりました。
皆様のご協力に感謝申し上げます。
また来年度以降も病院と地域との交流が図れるイベントを計画します。

令和7年度　「こどもの心の診療ネットワーク事業」

シンポジウム開催のご報告

令和8年1月17日（土）13時から、「こどもの心をよむ、こどもの心をみる」をテーマとしたシンポジウムを、神戸市中央区の神戸新聞松方ホールで開催いたしました。医療、教育、また医療の中での保育士という多様な場で活躍されている外部講師4名をお迎えし、県民をはじめ医療・福祉、教育に加えて保育関係者等、236名の方が参加しました。

冒頭、座長で当センターの田中名誉院長より、阪神・淡路大震災の追悼の日にあたり黙祷を捧げ、開会の辞を述べました。

『震災の後、避難所にいるこどもたちは元気に走り回っていたことを記憶しています。しかし表向きは元気に見えていたとしても、心に秘めていたものがあったのではないかと思います。辛さや悲しみを心に抱え、ある時「あのね」と打ち明けられたとき、あるいは発せられない「あのね」に気づくために、こどもの傍らにいる大人はどうすればよいのでしょうか？そうした事を考えるために、このテーマを考えました。ご参加された皆様の心の中にヒントが生まれてくることを願っています。』

※講演内容を一部抜粋

講演1　上西　初子　先生（元養護教諭）

現代において、コロナ対策や熱中症、不登校・保健室登校への対応など、養護教諭の仕事は多岐にわたり多様な対応が必要となっています。子どもの命と健康を守るという大切な役割は昔と変わりませんが、今は周りの人と力を合わせることが大切です。子どもの小さな声を教職員で共有し、一人ひとりに寄り添いながら、学校環境を整え、みんなで子どもたちを支えていくことが大切だと思います。

講演2　鷲野　千秋　先生（三重県立子ども心身発達医療センター　育ち支援課　保育士）

入院治療の中で、私たちは「あそび」を大切にしてきました。子どもが安心して気持ちを言葉にできる関係づくり、できないことを無理に頑張らせず、できることを伸ばす関わり、そして先回りせず自発的な行動を待つことが大切です。困ったときや辛いときに、無理をせず人に頼れる社会であってほしいと願っています。

講演3　森野　百合子　先生（成増厚生病院　なります子どものこころケアセンター　センター長）

子どもの力や可能性を伸ばすことが、大人の大切な役割です。子どもは大人より決定権が少なく、心は周りの環境に大きく影響されます。大人の考えを押し付けず、まずは子どもの気持ちを聞くこと、楽しい時間を共有することが大切です。家族療法では、原因探しより、どこか一つを少し変えて悪循環を断ち切ることを目指します。小さな変化が、やがて大きな良い変化に繋がっていきます。

講演4　滝川　一廣　先生（あなはクリニック　児童精神科医）

私は「治す」ことより、子どもの成長を「育む」ことを大切にしています。子どもは自ら育つ力を持ち、人や社会との関わりの中で発達していきます。世界は意味や約束で成り立ち、それを学ぶためには人との関係が欠かせません。貧困などの背景にも目を向け、その子に合った道を　緒に探し、成長を支えることが私の役割だと思います。

外来のご案内　完全予約制です。

- **受付時間：平日9時から17時まで** ※医師の希望は受付できませんのでご了承ください。
- **予約電話番号：078-940-5510（地域医療連携部直通）**
  再診の方で予約変更の場合は予約センターへご連絡ください。
- **予約センター：078-581-1013（代表）**

☆は初診の診察となります。

※休診日：土・日曜日・祝祭日及び年末年始

一般成人精神科外来	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	☆置塩	―	田中		見野		青山		田中	
2診	―		☆担当医	浦井	―	松本	―	新居	☆担当医	谷口
4診	轟		中井		曽我		和田		北島	
5診	吉川		―		石橋		置塩		堀本	
6診	丸田		佐藤		大山		葛山		袋井	
7診	土居		☆梅木	―	久保井		真殿		小林	
8診	梅木		―	坂口	金田		米村		竹中	
9診	稲村		―	佐武	近藤		☆袋井	―	☆米村	―
11診	☆松本	―	―		☆真殿	―	☆稲村	―	☆浦井	―

注意）児童思春期外来のご予約は必ず医療機関からのご連絡をお願いします。

児童思春期精神科外来	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	木下		松尾	持田	関口	田中	渡邉		☆和田	和田
2診	―	米村	☆谷口	―	尾﨑		―		緒方	
3診	―	☆田中	☆堀本	―	☆新居	―	☆緒方	―	☆坂口	―
4診	☆久保井	―	☆丸田	―	☆佐藤	―	―	松井	☆松井	―

- **認知症疾患医療センター：078-940-5522**
  もの忘れ外来は認知症疾患医療センターへご連絡ください。

もの忘れ外来	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
3診	☆小田		☆小田		―		☆小田		―	

交通のご案内

【電車でおこしの方は】

▶ 阪急・阪神・ポートライナー・JR三宮駅より市営地下鉄のりかえ、谷上駅下車、徒歩8分

▶ 神戸高速鉄道・新開地駅よりのりかえ、神戸電鉄・谷上駅下車、徒歩8分

【車でおこしの方は】

▶ 病院敷地内に無料の外来駐車場がありますが台数に限りがあります。

※神戸電鉄・市営地下鉄線谷上駅と当センターの間で患者送迎バスを運行しています。バスの時刻表は、下記のQRコードでご確認ください。

Scan Me!

07病P2-018A4